

GIGAスクール構想のもとでの 中学校保健体育科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導において ICTを活用する際のポイント

新学習指導要領とICT活用の関係

(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うよう工夫すること。

[中学校学習指導要領(平成29年告示) 保健体育]

例えば、体育分野においては、学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、保健分野においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお、運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、**活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切**である。

また、情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮することが大切である。

[中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編]

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導において ICTを活用する際のポイント

保健体育科で育成を目指す資質・能力と1人1台のICT端末の活用

保健体育科では、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力の育成を重視している。これらの資質・能力を育成する上で、GIGAスクール構想のもとでの1人1台のICT端末の活用に当たり、以下のような活用場面と活用の効果が考えられる。

知識及び技能の習得の場面

技ごとの動画を繰り返し視聴したり、スローで再生したりする。

知識の理解が深まる。

AEDの使用手順を動画で再確認する。

撮影した自分の取組動画を視聴する。

修正点を意識して、再度実施することで、技能が確実に習得される。



思考力、判断力、表現力等の育成の場面

各自の視点で、ゲームの撮影動画を確認することで、チームの特徴に応じた作戦を考える。

各自で考えたチームの特徴に応じた作戦をチーム内で話し合う。

思考力、判断力、表現力等の育成が促進される。

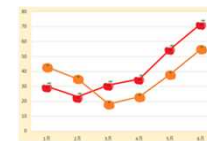


学びに向かう力、人間性等の涵養の場面

過去の自分の記録や動きを確認する。

自己の変容を確認する。

愛好的な態度の涵養につながる。



※上記の例はあくまで一例であり、今後、更なる効果的な活用が期待される。

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導において ICTを活用する際のポイント

課題とICT活用による生徒の期待できる姿

【課題】

- * 運動する子供とそうでない子供の二極化傾向
- * 運動時間の減少に伴う体力の低下
- * 健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分

【保健体育の授業において三つの資質・能力を育成する中で、ICTを効果的に活用することで、以下のような更なる効果が期待できる】

知識及び技能の習得	思考力, 判断力, 表現力等の育成	学びに向かう力, 人間性等の涵養
運動の行い方の理解 技能の習得	自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫・改善	仲間との教え合いの充実 自己の変容の確認

【その結果, 以下のような生徒の姿が期待できる】

- 苦手だった運動ができるようになり, 運動が好きになる。
- 運動することへの意欲が高まり, 積極的に運動するようになる。
- 自己の健康課題に主体的に取り組むようになる。